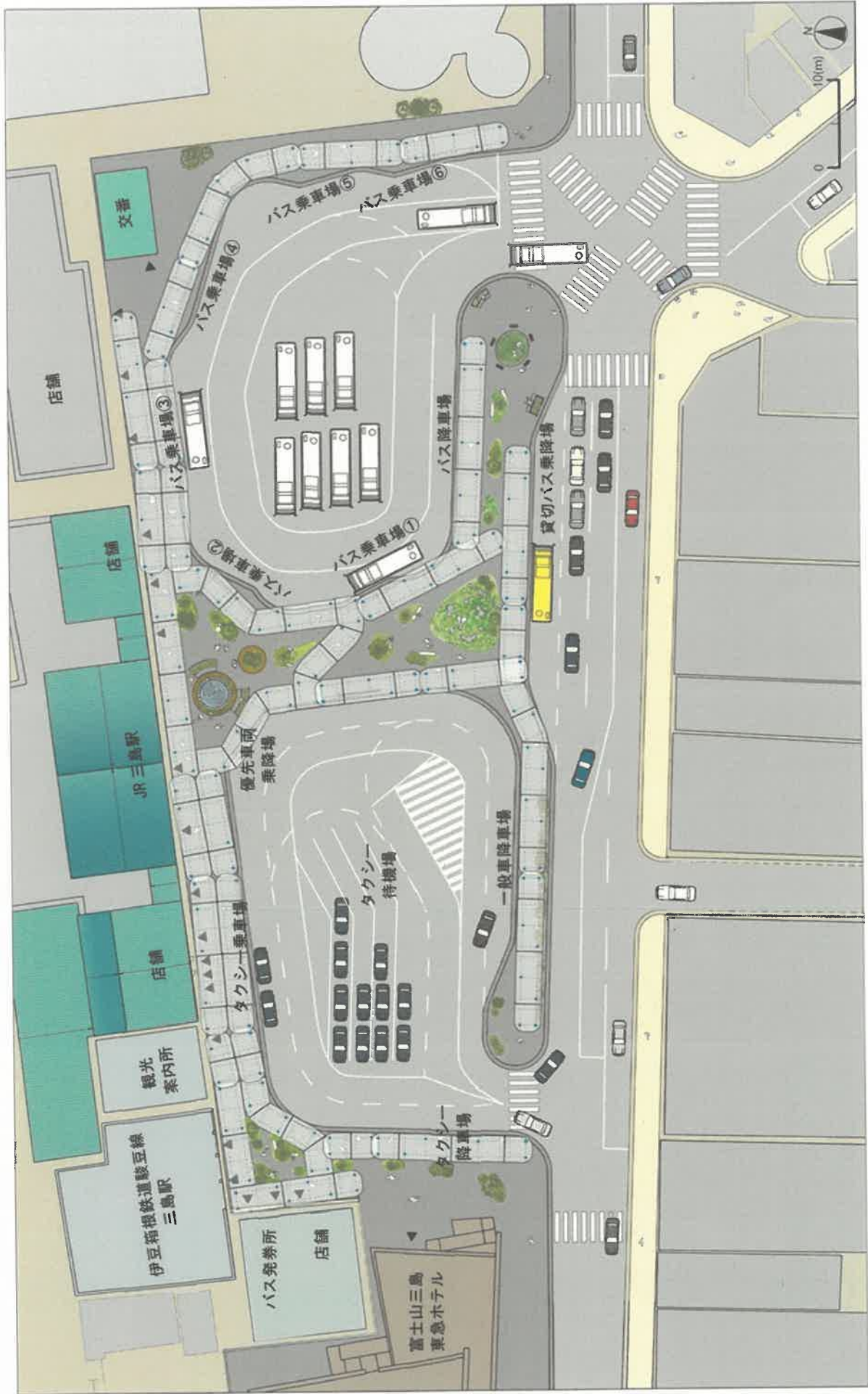


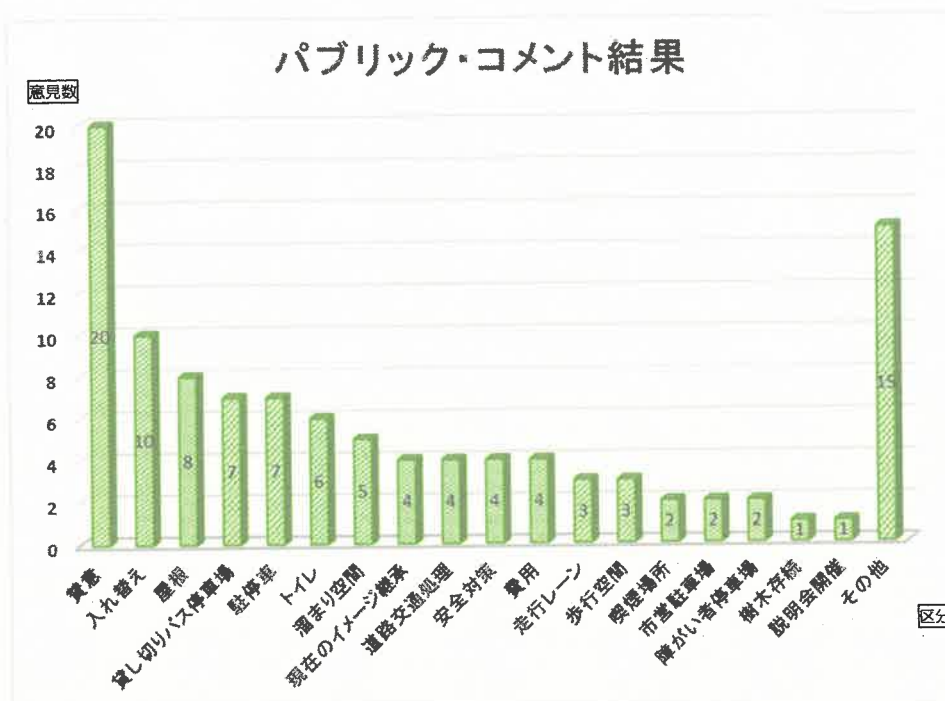
# 三島駅南口駅前広場整備計画（案）



※あくまでも現在の案であり、今後の協議等によって変更が乗じる可能性があります。

## パブリック・コメントの結果について

計 画 名	三島駅南口駅前広場整備計画（案）
意見募集期間	令和6年2月26日（月）～令和6年3月26日（火）
提 出 方 法	都市計画課窓口・電子申請（市ホームページ）・メール・FAX・郵送
意見提出者数	42人
意 見 数	108件



### 【主な意見・回答の概要】

入れ替え	東西ロータリーの機能入れ替えについて、長年の習慣を入れ替えるのは想像以上に混乱する。なぜ、機能を入れ替えるのか、理由を教えてください。	東西ロータリーの機能を入れ替えた場合、歩行空間を拡大できること、貸切バス乗降場の新設が可能となること、バス及びタクシーの乗降スペースを増やすことができること、信号制御により車両通行の安全性が高まることなど、市民や駅・広場の利用者にとって現状よりメリットが大きくなると考え入れ替え案を選択しました。
屋根	歩行者の主動線上に屋根を設けるとのことですが、整備計画案の模型を見ると非常に圧迫感を受ける。駅前には長時間滞在する場所ではなく、一時的な通過地点であり、三島駅北口のロータリーと同様の仕様やデザインに統一し、空がよく見えるようにした方が三島市の玄関口としてふさわしいのではないかと。	車いすや杖を使用される方、乳幼児連れの方などは、雨天時に傘をさして移動することが困難であることから、「道路の移動等円滑化整備ガイドライン」に基づき、景観にも配慮した連続する屋根を設ける予定です。引き続き、建築・景観の専門家の助言もいただきながら、ご指摘の圧迫感を改善できるように検討してまいります。”

貸し切りバス 停車場	貸切バスのゾーンが1~2台の計画ですが、現在の観光需要だと、もう少し増やした方が良いと思います。計画の貸切バスの縦列駐車ゾーンを広げて駐車台数を増やす。または、路線バスのロータリーにも時間帯や待機ゾーン等の運用で貸切バスの需要に応えられるようにする。	現状や将来の観光需要を鑑み、貸切バス乗降場を設けたいと考え、1~2台分新たに設ける案を策定いたしました。可能な限り多くの乗降場を設置したいのですが、広場面積に限りがあることから、これ以上の台数の設置は難しい状況です。 バスロータリー内の路線バスにおける1乗り場あたりの発着本数は、近隣の鉄道駅と比較すると約1.4倍から2.5倍となっており、混雑している状況です。バスロータリー内に貸切バスを進入させることは、新たな混雑・混在を招き、安全性確保、定時制確保の観点から難しいと考えております。
駐停車	一般車降り場は乗場(迎え)と併用か?実際は乗降場となり混雑が予想され、更に乗車(迎え)待機場所がないことから降り場付近に待機してしまうのではないかとそれによりロータリー入口から一般車走行レーン、降り場が混雑して、県道の渋滞にもつながってしまう。北口のような駐車場があると緩和されると思うのですが。(東街区再開発の駐車場までは距離があり、乗り場としての使用は希少だと思います)乗車用スペースの確保を希望します。	現在、一般車は、広場面積の制約から、引き続き同様の降車のみ運用を考えております。 整備計画案は、広場内における一般車の利用状況調査結果を踏まえ、一般車降車場の現在の状況である「一般車・タクシー兼用2~3台分」から、一般車とタクシーをそれぞれ分離し、新たに「一般車4~5台分」を整備するものです。 迎車等の比較的長時間の利用につきましては、従来同様に市営駐車場をご利用いただけるように無料時間の設定等を検討する予定です。
トイレ	市民や来訪者が交流する伊豆の玄関口として使いやすいおもてなし空間の創出、と記載されています。そのためには、快適なトイレも必須だと思いますがトイレ設置に関する情報が無いように見えます。トイレはどうなっているのでしょうか?	トイレの設置については、三島駅南口周辺エリアにおける景観や利用のしやすさに加え、高齢者や障がい者、乳幼児をお連れの方などに配慮したバリアフリー機能などの利用特性を想定・勘案する中で、トイレの配置場所や利用できる時間帯について検討しているところです。
溜まり空間	コロナ前まで、河口湖行きや箱根行きのバス停周辺で多くの外国人含む観光客がバス待ちをしている姿を日常的に見ていました。観光客が駅広のベンチで三島の街の雰囲気を楽しむながら、場合によっては街中まで足を延ばそうかと思ってもらえるような快適な駅広空間とまちとの連続性が生み出されることを期待しています。 また、隣接地で再開発事業も行われているので、バス待ちの観光客が再開発側の室内や広場でゆっくりと時間を待てるような連携、待合所やカフェの設置などが出来るとよいと思います。”	溜まり空間は、楽寿園や愛染院跡、白滝公園につながる連続性を意識した景観とし、市民や観光客が一息つける空間であったり、イベントを開催できるような広さを創出したいと考え設定しております。ご意見にもありますようにできるだけ大きな空間の創出、使い方に柔軟性を持たせられればと思っております。引き続き専門家の助言をいただきながら、植栽などの配置を検討し、空間の創出を図っていきたいと思います。

現在のイメージ継承	<p>歴史ある三島駅舎と、数々の賞を受賞し、来街者に高評価の現駅舎のコンセプトを引き継ぎ、より利便性、快適性に優れた駅舎となることを期待しています。</p>	<p>まちなかの湧水、溶岩といったストーリー性を感じる三島ならではの景観を創出したいと考えております。整備から20年以上経過し、施設の維持管理の面で存続が難しい施設は、改変することを考えていますが、新しいものを作りながらも、過去の記憶や資産を受け継ぎ、より良い環境を将来の世代に引き継ぐデザインを考えてまいりたいと思います。</p>
道路交通処理	<p>東西ロータリーを入れ替えて、バス出入口を現在の2つから1つにまとめた上で信号機による制御に変更とあるが、一番町交差点方面から西進する車の流れを、同方向からバスロータリーに右折するバスがせき止め、渋滞を引き起こすことは明白なため、スクランブル交差点に接続する道路の拡幅等、周辺の交通のスムーズな流れも含め、東部の玄関口としてふさわしい計画にすべきではないか。</p>	<p>現道における右折車線に相当する幅員は1.5mであることから、交差点でバスが縦列に待機する状況では、後続の乗用車の直進通行に支障を及ぼすことが予想されます。</p> <p>その対策としまして、現在、周辺事業の整備と合わせ、歩道部改修など、既存の道路幅員の中で、可能な限り車道部の右折のための幅員を広げる対策を実施していく計画を考えております。”</p>
安全対策	<p>現在、池付近は段差も多くまた夜暗く、年配者等の利用者のケガが多いと思います。間接照明は綺麗ですが、利用者の安全確保お願い致します。</p>	<p>けがにつながる段差が生じないように、利用者等の安全確保を第一に配置の検討を行いたいと思います。</p> <p>夜間の暗さについては、引き続き行う詳細設計時に照明の専門家の助言も頂き、安全確保のための明るさを求めるとともに景観への配慮も兼ねて検討してまいります。</p>



バスに乗って、出かけよう。



# Happy Ride in Shizuoka Project



## ～小学生バス無料デーの実施～

ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会  
(事務局：静岡県バス協会、県地域交通課)

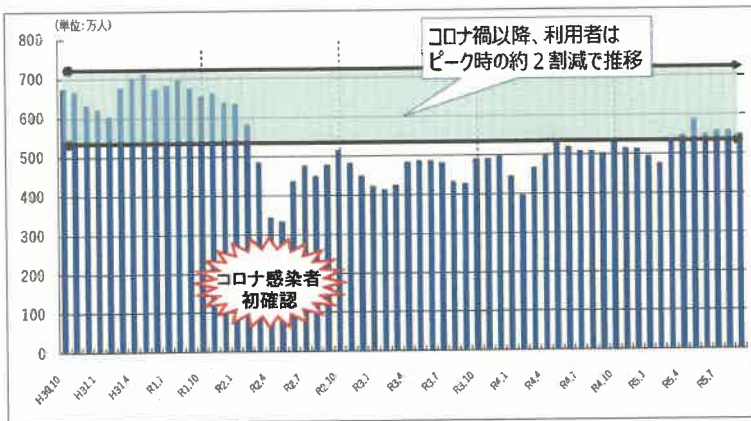
富国善徳の理想郷—しずおか  
ふじのくに



### 背景

✓コロナ禍が拍車をかけた乗合バスの乗車人員の減少

✓運転手のなり手の不足、高齢化による更なる運転手不足への危機感



（一社）地域公共交通総合研究所がR5.11に全国のバス事業者を対象に実施したアンケート回答者のうち、

全仕業に対して、**99%が運転手不足**と回答

運転手不足への対策として**回答事業者の半数が「減便」、約3割が「路線廃止」を計画**

### バス事業者「運転手不足」99%

バス事業者「運転手不足」の対策（複数回答）

- 減便 47%
- 路線廃止 34%
- 聯合会社との連携 13%
- その他 43%
- 無回答 10%

※地域公共交通総合研究所の調査結果に基づく

### 地公研調査「減便・路線廃止を検討」多数

地公研が実施した調査によると、全国のバス事業者のうち、運転手不足への対策として「減便」を検討している事業者が半数を超え、「路線廃止」を検討している事業者も約3割に達している。また、運転手不足の深刻化により、一部の路線が廃止された事例も報告されている。

富国善徳の理想郷—しずおか  
ふじのくに



## 目的

- 小学生を中心とした地域住民のバス利用の促進
- 地域の足を支える運転従事者に「感謝とリスペクト」する  
気持ちを育み、将来にわたり社会全体で地域公共交通を支える意識を醸成
- 皆でバスに乗り合うことによる環境負荷の低減



富国有徳の理想郷—しずおか  
ふじのくに

2

## 実施概要(案)

### 概要

小学生のバス利用を促進し、バス利用者の増加につなげるため、  
**県内全ての小学生を対象にバス無料デーを実施する。**  
(全県規模の実施としては前例のない取組)

項目	内容
対象者	県内の全小学校 524校 約178,000名 (国公立・私立小学校、特別支援学校含む)
実施予定日	令和6年12月7日(土)～8日(日) 2日間
対象路線	県内乗合バス事業者路線(貸切、観光バスを除く) 市町自主バス路線(実施可能な市町)
主催	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会(令和6年4月24日設置) 構成員: 国、県、市町、(一社)静岡県バス協会、乗合バス事業者 事務局: 静岡県バス協会、県地域交通課
オブザーバー	静岡鉄道株式会社、静岡県地球温暖化防止活動推進センター

ふじのくに

3

## 【参考】費用と経済効果

※2023年11月にしずてつジャストラインが静岡市で実施したフリー乗車券の発行・配布した実績をもとに記載

項目	内容	詳細
費用	1,069,020円	(内訳) ・乗車券印刷代 537,600円 ・チラシ印刷代 (郵送料含む) 466,000円 ・乗車券郵送代 65,420円
効果	1,236,552円	フリー乗車券利用者の同伴者 (大人) 利用者数 ×定期外平均単価201円×往復として算出

静岡市内	
学校数	95校
児童数	31,751名

富国無徳の理想郷 - しずおか  
ふじのくに



4

## 実施概要(スケジュール)

月日	内容
4月24日	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会の設立
5月中旬～	各学校に小学生バス無料デーの実施通知、校長会等での説明 (県)
5月下旬～	市町地域交通会議等での説明 (県)、運賃協議会での承認 (市町)
6月～	実施路線の特定、特設サイトの開設、沿線の公的施設等への協力依頼
10～11月	各学校経由で小学生に無料デー啓発チラシ (兼フリーチケット) を発送 各種広報、啓発イベント等の実施、プレスリリース (11月中旬頃を予定)
12月7～8日	小学生バス無料デーの実施
～1月下旬	利用者アンケート等のとりまとめ (効果検証)

富国無徳の理想郷 - しずおか  
ふじのくに



5





バスにのって、でかけよう。

# 小学生バス 無料デー

小学生は  
無料「0円」で  
何回でものれ  
るよ！



Happy Ride in Shizuoka Project



**実施予定日 令和6年12月7日(土)～8日(日)**

- ・期間中、静岡県内の小学生は無料で何度でも乗車できます。
- ・無料乗車エリアは、静岡県全域です。
- ・対象路線は特設サイトに掲載していきます（特設サイトは6月以降OPEN予定）
- ・各家庭にお知らせするリーフレットは、11月中旬頃に各学校にお送りします。



## 実施の目的

- ・小学生のバス利用を促進し、バス利用者数の向上を目指します。
- ・地域の足を支えるバスドライバーに「感謝とリスペクト」する気持ちを育むことで、  
地域公共交通を支える意識を醸成します。
- ・皆でバスに乗り合うことにより、CO2の削減を目指します。



山間地などまちから離れた場所に  
住む人々の移動手段を守ります。



お年寄りや体が不自由な人の移動  
手段を守ります。



バスは環境にもやさしい  
乗り物です。

(CO2の排出量は自家用車の半分以下)

バスに乗ると、  
こんなに  
「いいコト」が  
あるよ！

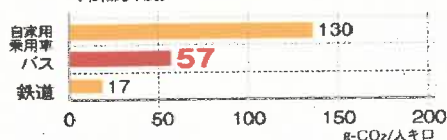


雨の日に道が混むのを和ら  
げたり交通事故を減らす効  
果があります。



地域の人と乗り合うことで  
コミュニケーションが  
生まれます。(運転手さんに  
感謝の気持ちを伝えることも  
大切です。)

[図E] 輸送量当たりの二酸化炭素排出量(旅客)  
(令和元年度)



国土交通省HP「環境運輸部門における二酸化炭素排出量」

主催 ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会

(国土交通省中部運輸局静岡運輸支局、静岡県、(一社)静岡県バス協会、乗合バス事業者、市町)

(問い合わせ) 静岡県交通基盤部地域交通課 054-221-3186



令和6年度国土交通省 地域公共交通確保維持改善事業費補助金

(自動運転社会実装推進事業) の公募について

1 地域公共交通確保維持改善事業費補助金 (自動運転社会実装推進事業)

(1)目的

地域づくりの一環として行うバスサービス等の自動運転化に伴う経費に対して、地方公共団体、または地方公共団体を代表団体とする自動運転社会実装推進事業コンソーシアムが、その費用負担を軽減するため当該経費の一部を助成する事業等に要する経費を補助し、経営面、技術面、社会的受容性等の実証を推進することで、自動運転技術を活用した持続可能な移動サービスを構築することを目的とする。

(2)採択までのスケジュール

- 公募開始日 令和6年4月5日(金)
- 公募説明会 令和6年4月11日(木)
- 公募締切日 令和6年5月7日(火)正午
- 採択決定 令和6年6月上旬

(3)採択結果

不採択 (令和6年6月6日受付)

2 申請内容

- (1)運行区間 三島駅(日大国際関係学部三島駅北口キャンパス駐車場) ⇄ 長泉なめり駅 ※途中下車あり



(2)使用車両 小型バスタイプ：1台 ⇒ 試乗人数：12名（立席3名）



●使用車両：  
日野自動車製の小型バス「ポンチョ」  
実証運行時最大時速 30km 程度で走行

項目	内容	備考	
車両	名称	ポンチョ	
	タイプ	ロングボディ2ドア(後乗・中降)	ノンステップ
	座席	定員34名 実証実験時は着座8名、立位3名	自動運転化改造後
	型式	2DG-HX9JLCE	
	車両重量	5,970kg	
	車両総重量	7,840kg	
エンジン	型式	J05E	
	総排気量	5,123L	
	燃料	軽油	
	燃料タンク容量	100L	
	燃費値	6.50km/L	カタログ値
	トランスミッション	5足AT	
寸法	全長	6,990mm	自動運転化改造後
	全幅	2,260mm	自動運転化改造後
	全高	3,100mm	自動運転化改造後
	最低地上高	165mm	車高調節あり
	ホイールベース	4,825mm	
	最小回転半径	7.7m	カタログ値

(3)自動運転方式 「GPS 誘導方式」と「3D マップ方式」のハイブリッド型  
レベル2相当（運転席「有人」での自動運転）

※日本大学国際関係学部 15 号館に設置

(4)スケジュール 調律走行：令和6年12月2日(月)～12月17日(火)  
一般試乗：令和6年12月18日(水)～12月23日(月)

(5)検証内容 経営面：「運賃収入」・「法人利用料」・「その他収入源」等  
技術面：走行ルート全域における自動走行率  
社会受容性面：住民アンケート、試乗者アンケート

(6)実証実験における座組

役割	企業機関名
実施主体	富士山南東スマートフロンティア推進協議会（代表団体三島市）
全体コーディネート	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社（東海支社）
実証実験支援	日本大学理工学部交通システム工学科（藤井 敬宏 特任教授）
自動運転車両提供	先進モビリティ株式会社
自動運転軌道設定	先進モビリティ株式会社
遠隔管制者	伊豆箱根バス、富士急シティバス、東海バス
車内保安員	伊豆箱根バス、富士急シティバス、東海バス
遠隔監視システム	株式会社NTTドコモ（本社 クロステック開発部）、株式会社東海理化電機製作所
リスクアセスメント	実施者：エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社（東海支社） 有識者：日本大学理工学部 藤井 敬宏 特任教授 安全確保指導：静岡県警三島警察署
フィールド/施設提供	三島市、長泉町、日本大学国際関係学部
ネットワーク・5G・路側カメラ	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社（東海支社）